

1 開催日時

平成23年6月25日（土） 午後2時00分から午後4時まで

2 開催場所

小平市中央公民館講座室2

3 意見交換の内容

●産業振興課長補佐

本日は農のあるまちづくりシンポジウムにご参加いただきありがとうございます。はじめに、事務局長である課長の竹内からあいさつを申し上げます。

●産業振興課長

本日は農のあるまちづくりシンポジウムにお越しいただきましてありがとうございます。小平市では、市の面積の約1割が農地となっており、400戸弱の農家があります。市内の農地は、都市の中の貴重な緑として市民生活に緑と潤いを与えるとともに、災害時の防災空間として多面的機能を持っております。農のあるまちづくり推進会議は、農業者をはじめ、商業業者、市民、関係機関等のいろいろな分野の方にお集まりいただきまして、意見交換をし、実践へと取り組んできたものでございます。

今回のシンポジウムではこれからの小平農業の発展の道しるべとなるように期待しているとともに、本日お越しの皆様からも感想、ご意見を頂きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

～委員自己紹介～

●産業振興課長補佐

小平市の農業の概要について簡単に説明を申し上げます。

小平市内の農地は、新鮮で安全な農産物を市民の皆様を提供する場だけではなく、都市の中の緑として市民生活にうるおいを与え、防災空間など多面的機能を有しております。

この貴重な農地をまちづくりの中に位置づけ、保全していくためには、農業が産業として確立され、農地が後継者に引き継がれるしくみづくりが必要であり、都市農業が農家だけで支えるのではなく、最近注目を集めている、体験農園などの仕組みの中で、市民が農作業の一部を担うなど、農業が地域に溶け込みながら市民の皆様と協力を頂くことで、都市農地が保全されているものと考えています。

農のあるまちづくり推進会議では農業者を中心に議論するだけでなく、商業者、市民、関係機関や関係団体が意見を出し合いながら、協力しあって行動する会として取り組んでいます。

このシンポジウムでは、委員の皆様から、都市農業を発展させるために、取り組んでいる事例をお話頂きますので、ここにご参加いただいている皆様からも、これからの小平の農業がというものこうあってほしいというご意見を頂戴し、小平農業を未来につなげていきたいと考えております。

●北沢委員

私は、東京都農業会議というところで東京都全体の農業の問題、支援などを行い、市民の皆さんと一緒に農業を発展していくということを提案しております。平成20年には、市長の前で、今まで自分たちの行ってきたことを提案する場を持たせてもらいました。本日は、委員の方の考えや、それぞれの団体の取り組みを聞いていただけたらと思います。

これまでの会議の中では、4つのプロジェクトにテーマを絞って話を進めてきました。低利用地活用、異業種連携、異業種との連携、学校給食地場産農産物利用促進について、それぞれの立場から様々なことについて議論してきました。私の方から、東京の農業、小平の農業についてお話ししたいと思います。小平市は全域が市街化区域ですが、東京はほとんどが市街化区域で農業をしています。平成4年、生産緑地制度が改正され、今日に至っていますが、市内の農地は現在、200ヘクタールくらいです。小平では、街道沿に家があり、一歩奥に入ると広い畑が広がっていましたが、相続があると短冊状の畑が売られ、農地が減少してしまう状況にあります。このような厳しい環境の中でも、小野委員さんのように学校給食や、自宅前の直売、また、奥様が漬物やジャムなどの加工品を作るなど多岐にのぼっています。また、認定農業者という計画的に経営を発展させていくなど、一生懸命農業をしている人を法律的にも支える制度もあります。現在小平市では61戸という多くの農家が活躍されております。

小平市は、学校給食に地場産農産物が沢山使われていることもさることながら、全校に学童農園があり、都内でも先進的に農業がおこなわれております。また、菜の花プロジェクトなど、NPOなどの市民団体によって農作業の支援をしているところもあります。かつて、農業は農家だけで自己完結でやるものでしたが、今では市民から進んで落ち葉を掃いて農家の人に渡し、農家は有機堆肥によって新鮮で安全な農産物を市民に提供するしくみが出来ており、今後もっと市民との協力が必要になると思います。東京では、野菜を生産する技術が高いといわれていますが、いい野菜を作っている技術力の評価が、すぐに消費者にわからない部分もあります。農家の人が一生懸命作った農産物が、直接価格に反映されず、収入が思ったより上がらないなど、経営が苦しい現実があります。小平の農業と市民生活との関係はいろいろな形態があると思います。それぞれの委員の立場からお話をしていただき、会場のみなさんからもご意見を頂けたらと思います。また、小平はブルーベリー栽培発祥の地でもあり、ブルーベリー特産化についても、地元でのイベントなどの取り組みや学校給食への地場産農産物の利用についても併せてお話を頂きたいと思っております。

●小野委員

私は、10年位前までは市場が主でしたが、2年くらい前から学校給食へも取り組んでおります。はじめは、朝の時間帯に車で学校まで運ぶため、交通渋滞の中で、遠くの小学校へ行くとい

うのは労力も、時間もかかって大変でした。しかし、昨年から、配送を市と農協で考えて頂き、遠くの学校へ運ぶ際には、農協へ一度集めるという形をとっていただいたので農家としても大変楽になりました。また、栄養士さんからは学校給食では大きいサイズが欲しいと要望されているので、どうやって小さいのを処理するのが課題です。また、作付けの際に、ジャガイモ、たまねぎのようにとおけるものは良いですが、きゅうりのように、陽気が良いと育ちが早く、一方で、何日か寒くなると思うように育たなくなるなど気候に左右されるので、そのような場合にも臨機応変に対応できるように、栄養士や農協などとの調整が必要であると思っています。

また、学童農園も上宿小学校で行っています。父兄の方、10人くらいも一緒に手伝いに来てもらえるので、助かっています。また、余った農産物を使ってジャムや漬物を作っています。畑の面積は3ヘクタールで、使用率は2ヘクタールくらいです。

●窪田委員

学校給食は、当初、小学校と農家が直接契約をして納入しているという状況でした。市場に出荷している農家にとっては、一日で利用する給食に納入するには量が少なすぎるし、庭先で販売している農家は多品目を作っているの、逆に多くの量を納められないという、不都合がありました。

そこで、市から、農協でうまく取りまとめができないかという話があり、2年前の2学期から試験的に野菜組合が一旦注文を取りまとめる制度を導入しました。平成16年は約3パーセントしか小平産の野菜が導入されていませんでしたが、現在は13パーセント弱に上がりました。

さらに、今年度から農家が給食の出荷に合わせた作付けを行うような指導い、年間に使用する給食食材に合わせて作付けも行っております。将来的には、3割の目標を持って地場産農産物を導入したいと考えておりますので、これからは、農家に対しても計画的に無駄のない栽培指導をして農業の効率を上げてほしいと思っています。

●産業振興課長補佐

市では、今年度から地産地消推進事業を行っています。今までネックになっていた配送体制を整えただけでなく、農協が農業者と学校の間に入って、農家を調整し計画的な栽培をして、地場産農産物の配送につなげています。市内産農産物の物流体制を整えることによって、給食の地場産野菜の導入率が上がるだけでなく、さらに今後市内の飲食店へつなげ地産地消が拡大するようがんばっております。

●水口委員

パルシステム東京の小平委員会の委員をしています。昨年初めてパルシステム東京で小平産の農産物を供給することができました。組合員は都内40万人でコープ東京次いで都内で2番目の会員がいます。組合員の中でも、地場野菜を大切にしないといけないという話を2007年から話をするようになり、2009年ころから実際に取り入れるような方向に進んできました。

昨年、ブルーベリーと梨を取扱いましたが、数の予想が難しかったので、今年は、注文と発注にゆとりをもって進めていきたいと思っています。また、JA小金井の方からお誘いがあり、じゃが

いも掘りを行いました。企画としてはうまくいかないこともありますが、農業にかかわる人がこれまで少ないので、これをきっかけに農業に触れるきっかけができれば良いと思います。

●尾山委員

商工会は商業者を支援する立場ですが、地域の農産物を使って特産品を販売するなど、商業振興を行いたいと考えています。小平はブルーベリー発祥の地ということで、平成20年に市とJAとがかかわってブルーベリー協議会が発足しました。これまでは、ブルーベリーは市内で少量しか栽培されておらず、生食を中心に進んできましたが、今後は加工品を作って売っていかうということで地域の産業振興に取り組んでいます。ブルーベリーを加工品に使いたい商業者のために、農家さんでもブルーベリーの生産量を増やし安定した供給と安く提供できるように努力しています。

また、ブルーベリーの加工品には、ブルーベリー協議会が認定している商品以外にも小平ブランドという商品があり、ブルーベリーの商品を多くの人に買って頂き、産業振興につながるように協議会とともに協力して取り組んでいます。今後、小平＝ブルーベリーとなるように、市外の方にも広まっていけば良いと思います。

●金井委員

体験農園をするまでは農業とかかわりを持ったことがありませんでした。体験農園は30㎡程度の区角で、天神町の吉野さんに指導して頂きまして、道具や苗は用意していただき、会員が同じ野菜を作ります。野菜もおいしいのですが、貴重な農業体験をしております。自分自身、群馬で畑をやっており、小平の農業の問題を考えてみたいと農のあるまちづくり推進会議に応募しました。今期は、地産地消というテーマで進めてきました。去年は、自分の住んでいるマンションでイベント的に小平産野菜の直売を行いました。マンションにお住まいの方に大変喜ばれ、マンション内のコミュニティーの活性化につながったと考えております。また、農家のメリットとしては、新たな販路の確保、いろいろな消費者の声を聞くことで、今後の農業生産に活かせるということだと思います。よく、フードマイレージなどの言葉を聞きますが、地産地消は環境にやさしい取り組みであるとも思います。マンション内での直売は、売れ残ったらどうするのか、利益が出たらどうするのか等問題もありましたが、今後もこのような取組みを続けていけたら良いと考えております。

●久保田委員

私は、新宿から小平に引っ越してきたときに、地域とのつながりがあまり無いことに気づきました。そこで、はじめに、地域の安全を守るために、7年前に毎晩9時から夜回りを始めました。最初は、数人で回りはじめましたが、その後一緒になってやろうという人が増えず、裾野が広がっていきませんでした。その時にNPOの菜の花プロジェクトのことを初めて知り、参加したときに市民参加型の農業に参加ができてのではないかと思います。その後、園芸福祉の中の野菜の分野の勉強をしようと思い家庭菜園検定、農業技術検定など勉強してきました。その時、小川町の華農園で体験農園に参加して栽培技術の研究をしました。この推進会議に参加してみようと思

い現在参加させていただいております。この2年間での区切りを迎え、委員としての経験を生かしながら、自分の目標を達成していきたいと思っています。この2年間で得た自己的人脈を生かしながら自分の目標を達成していきたいと考えています。

●小堺委員

小平の農家は、市場価格の低迷により市場出荷型から直売型の農業へと変化してきました。現在、中央農業改良普及センターで普及員をしております、これまで西多摩、南多摩、大島へ行ったことがあります、東京の農業は、島を除いて直売型が主体となっています。その中で市民とのかかわりが深くなっているという思いがあります。現在、体験農園や食育など市民と農業へのかかわりについて理解が必要となっています。農地を維持していくためには市民からの理解が必要であると思います。様々な葛藤のなかで減農薬のための技術の普及や市民の方のニーズを満足させるため、端境期の対策として、一年を通して品物をそろえられる直売所のあり方について取り組んでいます。農家を回る中で、新しいことに挑戦している人はお話をしても生き生きとしていて、後継者の人も農業を継いでいきたいという意思を強く持っている人が多いです。市民の人を交えて討議をしてこのような機会を持っている市は少なく、小平市はこのような場があるので、意見を聞きながら生かしていけたらと思っています

●久保田委員

小平市の自治基本条例に携わってきたメンバーの内の一人ですが、その全文の中に「先人がひらき長年培ってきたこのまちの水と緑豊かな環境」ということばがあります。農のあるまちづくり、農業を大事にしていこうという思いが書かれている部分ですので、ぜひ一度目を通していただきたいと思っています。

●会場参加市民

ボランティアをやっているものです。

1つ目に埼玉県では、共同販売所の他に、スーパーマーケットに地場産野菜の場が設けてありますが、小平ではほとんど取り扱っているところはありません。農家の規模やいろんな問題がありますが、小平でも取り扱えないのかと思います。

2つ目に相続の問題で、農地法では二親等までは農地をつげることができることを聞いたことがありますが、周知されていないのではないのでしょうか。

3つ目に、今年の12月3日に6次産業化法が施行されました。それに対する小平の対応、来年からは国家資格として6次産業化プランナーというものを考えていると言っていますが具体的にどのように進めていくのかを聞きたいです。

●窪田委員

いなげやの学園西町店、花小金井南口のピーコックには出荷をしていますが、農家は、天候が良くて生育が進んだときなど、収穫のできる時は大量に出荷できますが、安定して出荷できないのでスーパーへの出荷に意識が向きにくいということがあります。ここ数年はスーパーよりも、

給食の導入率がまだ少ないこともあり、スーパーよりも給食に意識が向いていくと思います。JAとしても、まず給食への導入を進めていきたいと考えています。給食の数字が上がってくればスーパーへも販路が拡大していくと思います。6次産業化ですが、1次産業がないとスタートしないのが6次産業であると思います。作付けしても販売する体制ができないと、次に進んでいかないと感じています。農家を支える体制を整えてから6次産業化を進めていければと思います。

●北沢委員

農地法の改正で、働く人が拡大されて、相続というより世帯員という考え方で2親等までを世帯員という考えとなりました。相続自体は今まで通りです。

働く人が拡大されたので、2親等までの人が農業に携わっていれば農業をしていると判断されます。

●会場参加市民

食料・農業・農村基本法第36条に都市農業について記載していますが、具体的に聞こえてきません。半農、半地主を提案したいです。土地の半分までは地主として貸せるというシステムを認めて欲しいということを要望します。

●北沢委員

農地が減っていく原因は相続で、貸してしまうと納税猶予にのることができず、つらい思いをしている人もいます。自分で農業をしないといけないので、農地を人に貸してしまうと納税猶予制度にのれないということがあります。少し畑を借りてやってみたいという人もいますが、農地制度の関係もあり、難しいのが現状です。貸しても、納税猶予などの制度が認められれば良いのですが今の段階では、認められていません。しかし最近、国では、都市の中の農地の多面性に着目し、まちづくりには都市農業が必要だという考えになってきました。6次産業化法では、計画を農家が立てて農林水産大臣の許可を得て、現在より5パーセント売上をしないといけないという計画となっています。法律の中では6次産業化法に沿って進めていくことは大変ですが、小平市内でも加工品など作っている人がいますので、市内で取り組んでいる6次産業化は継続していいのではないかと思います。

●小野委員

今日、議論して頂いたことは農地の維持のためにまず農業生産を上げることが必要です。農業者から生産緑地の買取申出が出された場合、生産緑地法第11条では、市は、やむをえない事情以外は買い取らなければならないとなっていますが、実際には買っていないのが現状です。

●金井委員

生産緑地を行政が買わないといけないといいますが、市が買っているところはほとんどありません。市に予算を付けて頂き、そこを農地として残して市民がかかわれるような形にして、市民が運営していけば良いのではないかと思います。

●久保田委員

一般市民の人からも畑を守りたいという声が聞こえてきます。その費用を市民が負担をしたらどうでしょうか。緑を保全する資金を作り出すことが必要です。農地として認められる営農のあり方について体験農園のように市民が主体となって農地を維持していく方法があるのではないかと思います。

●会場参加市民

マンションは土のない生活ですが、取れたての野菜を売るという発想が良いと思いました。次はどう付加価値を絡めて広げていくのでしょうか。マンションで野菜を売るという今後についての考えを知りたいです。

●金井委員

マンションと野菜の組み合わせという難しさがあります。どのようにして売り込んでいくのか、マンションの人をどう巻き込んでいくのかが課題です。体験農園に参加していて、取れたての野菜はおいしいということを知ってほしくて、地場産野菜の販売を始めましたが好評でした。おいしいという意見や、この企画の感謝の言葉など多くの人に感謝していただきました。また、白菜や大きな野菜は重くて持ち帰れないお年寄りがいるので、近くで売ってくれて助かるという意見がありました。小平には、こんなにたくさん畑があるということを知っている人が少ないと思うので、農業とかかわる行事を自治会行事としてできないのかと思いました。体験農園「畑のおじさん」で体験農園をしていたときに落ち葉堆肥の話を知りましたが、マンションの落ち葉を処理するときにお金をかけて捨てているのでそれを畑に持っていければ農家の人にとっても、マンションの人にとってもお互いに良いと思っています。

●北沢委員

まだお話を頂きたいところですが、今日はブルーベリーの試食を用意しておりますので、最後に食べて頂いて最後に締めをしたいと思います。

●産業振興課長補佐

商工業者にスムーズにブルーベリーを加工品に渡せるように取り組んでいます。今日は、ブルーベリーのもろみ酢、ブルーベリーどら焼き、鈴木園のブルーベリーパウンドケーキ、夢ちゃんなどを用意しています。

***** 会場参加者は試食をしながら意見交換 *****

●北沢委員

今日は多くの意見をいただきましてありがとうございました。農のあるまちづくり推進会議で今まで取り組んできたことが、今日このような形で開催できて良かったと思います。

大切な農地を未来に残していくために、これからの小平農業が、市民の皆さんとともに支えていける仕組みづくりが必要であることを改めて感じております。

以上で農のあるまちづくり推進会議シンポジウムをお開きとします。ありがとうございました。